

ひとよしへのアクセス



各交通機関でのアクセス

- 高速バス**
 西鉄天神高速バスターミナル⇒人吉IC(約2時間30分)
 熊本桜町バスターミナル⇒人吉IC(約1時間40分)
 新八代駅⇒人吉IC(約40分)
 鹿児島空港⇒人吉IC(約1時間)
 宮崎駅⇒人吉IC(約1時間40分)
- 九州自動車道**
 福岡IC⇒人吉IC(約2時間10分)
 熊本IC⇒人吉IC(約1時間)
 宮崎IC⇒人吉IC(約1時間10分)
 鹿児島IC⇒人吉IC(約1時間10分)

人吉クラフトパーク石野公園(道の駅人吉)へ→
 にしき ひみつ基地ミュージアムへ→

観光施設・体験情報



人吉クラフトパーク石野公園(道の駅人吉)

人吉の郷土玩具「さじ馬・花手箱」の絵付けや、陶芸、木工、ガラス工芸、革小物づくり他を体験することができます。
 ※受け入れ人数に限りがございます。詳細はお尋ねください。

【ご予約・お問合せ】TEL 0966-22-6700



にしき ひみつ基地ミュージアム

太平洋戦争中に建設され、そのままの状態に残る地下壕に実際に入り、当時のエピソードや人吉海軍航空隊の歴史などガイド認定を受けたスタッフの案内でフィールドワークを行います。

【ご予約・お問合せ】TEL 0966-28-8080

令和2年7月豪雨 人吉被災地域防災講話プログラム

【ご予約】一般社団法人人吉温泉観光協会

〒868-0008 熊本県人吉市中青井町326-1(JR人吉駅構内)

E-Mail: info@hitoyoshionsen.net

TEL/FAX 0966-22-1370



あの日突然、
生活が一変した。

不測の事態に、備えるために。

令和2年7月豪雨
人吉被災地域防災講話プログラム

～令和2年7月4日 豪雨のため球磨川が氾濫～

災害経験を次世代に繋ぐ学びのプログラム
日頃の備えが「いのち」を守る。

目の前で流されてゆく家や車、
 難を逃れようと濁流を懸命に泳ぐ人たち、
 屋根の上で呆然と救助を待つお年寄り・・・。
 今も多くの市民の目にその日の光景が焼き付いています。

午前5時15分、避難指示の発令を知らせる防災行政無線が流れると、
 間もなく球磨川本流やその支流があちこちで氾濫、
 濁流があつという間に街を飲み込みました。

【被害状況】

市町村名	浸水面積 (ha)	浸水戸数 (戸)
人吉市	約518	4,681
鏡町	約290	約280
相良村(柳瀬橋下流)	約90	約260
(柳瀬橋上流)	約130	約170
球磨村	約70	約290
八代市	約25	約520
あさぎり町	約20	約4
芦北町	約5	約70
合計	約1,150	約6,280

これによる死者 20名

今回の災害は、多くの生命、財産が失われましたが
 改めて『気づき・得るもの』もありました。

『人吉被災地域防災講話プログラム』では
 様々な業種のプロフェッショナルが
 『生の声』で災害の実情と備えをお伝えします。

このプログラムにより**“生きる知恵”**を学び、
 日々の生活に繋げていただければ幸いです。

人吉被災地域
 防災講話
 プログラム

講話プログラム内容

ご希望のお時間に合わせ、プログラム内容をお選び(組合せ)いただけます。
 ※団体受講の場合、人数制限がある場合がございます。事前にご相談ください。

1講話 所要時間
 30分～60分

【職人の話】



減産物

人との関わり・そして生き方を考える
 九州の小京都と称されるこの地は、代表的な球磨焼酎・人吉球磨茶・味噌醤油・織治屋をはじめ、様々な分野で職人が伝統を守り継いでいます。豪雨災害で一時は存続危機にあった特産品の数々を共に救ってくれたのは、日常交流のあった生産者やお客様、地元の高校生達でした。そして高齢者の多い町の救助の実態や人との関わりについてもお伝えします。

ポイント 日常交流の重要性・情報収集について・特産品を守るということ・災害への備え・ネット社会の今、人との繋がりを考える

【文化財の話】



文化遺産

災害に備え、文化財を守る
 人吉球磨には、国宝青井阿蘇神社をはじめ59の日本遺産があります。青井神社は市民にとって生活の一部であり「あおいさん」と親しみを込めて呼ばれています。そのマチのシンボルあおいさんが被災すると誰が予想したでしょう。いつ・どこで・誰が遭うか分からないのが災害です。文化財の歴史を学ぶと同時に自分自身の備えについてお伝えします。

ポイント 文化財の被災状況・青井阿蘇神社の歴史・文化財の復興と備え

【宿の話】



宿

安全確保の実態
 球磨川沿いをはじめ市内全域に老舗旅館やビジネスホテルが多数あります。今回の水害でほとんどの宿が甚大な被害に遭い、お客様の“命”を守る為、迅速な避難誘導や社内の取り組みが行われました。避難訓練だけでは知れない、災害の実態をお伝えします。

ポイント 避難誘導の実態・宿の被災状況・復興への取り組み・人的ネットワークの大切さ・災害の備え

【食の話】



食

命を守る食と災害時の教訓
 発災時、被災エリアはもちろん市内全域で一時的にガス・水道・電気などのライフラインが使えなくなりました。どんな状況であっても、食べることは生きる上で必要不可欠であり、食が与えるエネルギーは絶大です。この災害を通して、食を通じたボランティア活動の実情や日頃の備えの大切さ、食の重要性をお伝えします。

ポイント 命を守る食・日頃の備えについて(災害時の食)・災害を経験した飲食店ならではの教訓・被災後復旧復興に向けての取り組み

【観光の話】



観光

球磨川と共に生きる
 ラフティングや球磨川下りは、人気アクティビティであり人吉市の観光は長年にわたり「球磨川」に支えられてきました。今回の豪雨災害で川が大氾濫をおこしましたが、市民が口を揃えて言うのは、川を恨むのではなく「球磨川」と共に生きるということ。このプログラムでは、川を知り尽くした船頭やラフティング関係者が水害の実態と備え、防災意識向上に関するをお伝えします。

ポイント 球磨川くだりの被災状況・復興への取り組み・防災意識向上に関するはなし

【交通の話】



交通

安心・安全とサービスの提供
 人吉の公共交通の要であり観光列車の拠点であった人吉駅。今回の豪雨災害では、多くの観光客や地元の方が利用していた肥薩線の駅や線路が甚大な被害に遭いました。被災の記録を通して今後の対策など会社全体で取り組んでいます。これまでの常識が通用しなくなっている今、日頃からの事前準備の大切さ、緊急事態を想定した行動などについてお伝えします。

ポイント 肥薩線各駅の被災状況・公共交通機関としての役割・復旧復興に向けて、駅長の信念